（第２号様式）

令和３年３月 19 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立中原養護学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（２月 18 日実施）	総合評価（３月 16 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	児童・生徒が主体的に学び行動し、対話的に学び高めあう力を育み、地域の資源等を活用した活動を取り入れ、社会に開かれた教育課程を編成する	①校内研究のテーマとして授業実践・授業改善・授業研究に取組む。	①4 年間の目標を取り入れた授業を実践し、保護者に説明していく。	①テーマを取り入れた授業について教員年間1つ以上の授業指導案（略案）を作成し公開できたか。 授業参観後の保護者の肯定的評価 80%以上	①学部単位での取組を進めた。 保護者 授業参観後の肯定的評価　73% 教員　授業公開達成度　62%	①学校全体としては次年度以降 3 年計画で研究を進める。教員一人一人の授業改善を通して理解を深める。	全体として学校の取組に対して保護者アンケートで高い評価を得ている。（80%以上）コロナ禍の状況下で学校が様々な取組をしてきた結果である。 ①教員の授業公開の達成度は低いが、制約のある中でこの数値は評価できる。	①取組は各学部単位のものになった。 保護者からは一定の評価はあるが、授業のねらい等さらに説明を明確にする必要はある。	①研究テーマと教員一人一人の授業改善が繋がるように、研究授業や公開授業を計画的に実施する。 ①授業参観時の説明シートを作成をする。 ①生徒（高等部）による授業評価、学校評価を実施する。
			②今年度の状況の中で児童・生徒の実態に応じた学習保障に取組み、教育課程を編成する。	②指導方法や教材・提供方法の工夫により学習保障を行う。必要な学習内容を精査し教育課程を編成する。	②年間評価での保護者アンケートで肯定的評価 80%以上	②ICT を活用した学習を進め学習保障に取組んだ。また、学習内容を精査し教育課程を編成した。 保護者　肯定的意見 72% 教員　達成度 95%	②動画の作成や活用方法について研修研究が必要である。	②ICT の活用が進んだことは高く評価できる。一方で、動画の作成等についてはさらに効果的なものを検討していけるとよい。	②ICT の活用は進んできたが、作成技術の向上や地域資源の活用などを進めていく必要がある。	②ICT 活用についての自主研修会の実施。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた専門性の高い指導を行うと共に校内指導体制をさらに整備する。	①「学部コーディネーター」の役割を明確化し、学部・部門内での相談・支援体制を充実させる。	①学部コーディネーターが核となり、学部のケース会議を行う。	①学部コーディネーターが核となるケース会の実施（学部 10 回/年）	①各学部でニーズにあわせたケース会を年間 10 回以上実施できた。	②実施内容や方法について効果的な方法をさらに工夫していく。	生徒のストレスへの配慮がされていたのはよかった。（学習と行事のバランス。）修学旅行が実施できたことは児童生徒のために大変良かった。	①各学部のニーズに応じた研修やケース会を学部コーディネーターが核となり実施することが定着してきている。学部会の中での実施など時間設定も工夫されている。	①学部コーディネーターが中心となる研修やケース会を継続していく。
			②学部や児童・生徒実態に応じたアセスメントを行い授業等へ活用する。	②各学部で「アセスメント」についての研修を専門職等と協力して実施し、個別教育計画に活用する。	②研修会が実施できたか。 個別教育計画等への活用。（教員へのアンケート　活用 100%、保護者アンケートでの肯定的評価 80%）	②教員　アセスメント活用についての研修会参加 83% 保護者　個別教育計画は実態に合っている。97%	②各学部の実態に合わせた活用を進めていく。		②アセスメントの有用性については理解が進んできているが、実際の活用については今後もさらに推進していく必要がある。	②各学部の児童生徒の実態に応じたアセスメントを活用する。
3	進路指導・支援	個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。	①全ての学部の教員が進路指導・支援に関する知識や実践力を向上させる。	①研修会の工夫により全職員が進路先について理解し、学習する機会を設定する。	①進路に関わる研修会を各学部が学期ごとに実施できたか。	①教員　研修会の参加 68%。参加者全員が進路指導に対する理解が進んだと回答。	①実際の進路先の見学等は難しかった。	ICT 活用の推進が図れたことは今後の円滑な社会参加へのきっかけとなる。	①実際の進路先の見学等は難しかったが、各学部において実施した進路専任による研修会は効果的であった。	①今後も研修会を各学部の実態に応じて実施する。 ①状況に応じて見学等も計画実施する。
			②進路に関する学習について各学部で整理し検証する。	②高等部においては進路指導・学習を体系化しまとめる。その際、清掃技能検定を積極的に活用する。	②進路指導・学習についてまとめることができたか。 清掃技能検定の活用。（前年度より参加者増）	②各学部で進路指導や学習についてのまとめを進めている。 清掃技能検定は分教室 1 年生が 10 名参加。	②各学部での検討をさらに進める。		②各学部での検討をさらに進めていくと共に学部間の系統性等についても検証していく。	②カリキュラム研究係と連携してライフキャリアをみすえた学習計画を整理する。 ②清掃技能検定活用を進める。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （２月 18 日実施）	総合評価（３月 16 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域と連携した活動の機会を設ける	①長期にわたる臨時休業等の今年度の状況を踏まえ、教育相談コーディネーターを核に校内支援体制を強化する。	①学部長、学部コーディネーター等と協力して校内での支援ニーズを的確に把握しケース会を実施し必要に応じて外部機関と連携する。	①迅速に外部機関との連携がとれたか。（外部連携実施回数、校内ケース会から外部連携に要した日数等の記録）	①外部連携　32 ケース（外部連携に要した日数　２日以内） 教員　必要なケース会は教育相談コーディネーターを通じて連携した　90%	①引き続き速やかに対応できるように外部機関のリストの更新をしてく。		①必要なケースについて迅速な対応と外部機関との連携により支援体制が強化できた。	①今後も継続する。
			②地域資源を活用し連携した学習や防災対策等を計画する	②地域と連携した防災訓練を実施する。	②地域と連携した防災訓練が実施できたか。	②感染予防の観点から近隣施設や住民との訓練は実施できなかった。	②今後の社会の状況に応じて対応していく。		②今年度は地域と連携した防災訓練は実施できなかった。	②地域資源を活用した学習について今後も方法を考えて実施していく。
5	学校管理 学校運営	保護者や地域から信頼・信用される安心安全な学校づくりを行う。	①安心安全で効率的な業務が遂行できる職場環境を作る。	①安心安全な環境や効率的な業務改善についての提案を行う。	①各学部、グループから年間5つ以上の改善案が提案され、改善できたか。	①各学部、グループからは年間に5つ以上の改善案が提案された。 教員　改善の提案 68%	①教員は改善に取組んでいるが意識できていない面がある。	感染症対策、仮設校舎への移動など、児童生徒の心身のケアや教育について全面的かつ迅速な見直しが求められことに教職員が一致して取組んだことに敬意を表する。	①ヒヤリハットアクシデントの報告方法を改善した。対応策を考えた後に実施できたかを検証するようにした。	①改善したヒヤリハットの取組を今後も継続していく。
			②保護者や地域に学校から適時情報発信を行う。	②ツイッターやＨＰで学校の様子や工事の進捗状況を発信する。	②週に1回以上情報を更新できたか。保護者への情報を迅速に行えたか。（保護者アンケート結果肯定的意見 80%）	②ツイッターはほぼ毎日情報を更新できた。 保護者　情報発信のタイミング　適 94% 情報はわかりやすい 73%	②対象やタイミングを考慮した効果的な情報発信が必要である。	②ツイッターにより学校の情報がよくわかる。	②ツイッターの情報発信は学校の様子がわかると好評である。ホームページの整理も進めてきた。様々な広報媒体の特徴を活かして情報を発信していく必要がある。	②広報媒体の特徴を活かし、情報をさらに発信していく。